

⑫ 公開特許公報(A) 平2-13339

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)1月17日

A 01 K 97/10
97/22Z 7416-2B
7416-2B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全11頁)

⑮ 発明の名称 連動リールスタンド

⑯ 特 願 昭63-164156

⑰ 出 願 昭63(1988)6月30日

⑱ 発 明 者 田 幡 久 雄 静岡県浜松市小沢渡町1836番地の1

⑲ 出 願 人 田 幡 久 雄 静岡県浜松市小沢渡町1836番地の1

明 細 書

1 発明の名称 連動リールスタンド

2 特許請求の範囲

図面に示す様に、適当な太さと長さの棒1、1'をU状とし、棒1、1'の裏側に数枚の適当な板2を上部から適当な間隔で水平に付け、板2の裏側にU状丸棒受け3を付けて棒1、1'の下部の内側に、左右に適当な太さと長さの棒4、4'を、上部に丸棒5を付けてU状とし、下部の表側に数枚の補強板6、6'を水平に付けたわくAの上部を重ねて左右からピン7で支え、わくA内に入る幅でわくA状のわくBを設けて、わくA、Bそれぞれの補強板間が外側になる様にして適当な位置でX状に交差させて、交差部の左右をボルト7とナット7で支えてX状のスタンドとし、上部の板2の左右のすき間の下部から上へちようボルト9を突き出して、長穴10付きの魚状竿受け11の尾側のV状部をわくAの補強板側に突き出して、補助板12付きのL状リール振れ止め13と共に適当な位置で固定し、中央部に適当な幅と長さの板の一端

側に適当な穴14、14'を設け、他端部側の左右にU状切り欠き部15を設けたマナ板兼ビーチラソル支え板16の穴14'側をわくAの補強板側に突き出してボルト17とナットで固定し、適当な大きさでU状の板、例えば、鉄板内を中空かまぼこ状とし、左右に穴19をあけ、正面か上部にかけてU状切り欠き部20を設けて釣り竿下部支え台21とし、丸棒をU状に曲げた釣り竿下部支え22の上部の左右の突起部23をU状切り欠き部20から穴19に入れて外側に突き出し釣り竿下部支え22の適当な位置に数ヶ所、上下に適当な板24をはさんでちようボルト25とちようナット26で固定した釣り竿下部支え台固定具27を付け、数個の釣り竿下部支え台固定具27を補強板6、6'の間の適当な位置、例えば、左右と中央部の裏側から表側へ突き出したちようボルト28をボルト穴29に入れてちようナット30で固定し、前方のわくBに付けた下の補強板31の裏側に、釣り竿下部支え台32に釣り竿下部支え22をU状に曲げて外側に突き出した連動リ

ールスタンド支え33とした、連動リールスタンド。

3 発明の詳細な説明

◎産業上の利用分野

釣り具・テーブル

◎従来の技術

三脚スタンドを使って数本の釣り竿を立てていた

テーブルの中央部にビーチパラソルを立てていた

◎発明が解決しようとする課題

- (1) 左右のリールのハンドルを \hookrightarrow 状連動シャフトで回わすと、リールが振れ、横風が強いと釣り竿が傾斜してうまく回らなかった。
- (2) 釣っていてゴミや大物が釣れるとスタンドが振動した。
- (3) ビーチパラソルを立てる時には大きなテーブルが必要だった。

◎課題を解決するための手段

本発明は上記の様な課題を解決するための手段

で図面について説明すると、適当な太さと長さの棒1、1'を \parallel 状とし、棒1、1'の裏側に数枚の適当な板2を上部から適当な間隔で水平に付け、板2の表側に \sqcap 状丸棒受け3を付けて棒1、1'の下部の内側に、左右に適当な太さと長さの棒4、4'を、上部に丸棒5を付けて \cap 状とし、下部の表側に数枚の補強板6、6'を水平に付けたわくAの上部を重ねて左右からピン35で支え、わくA内に入る幅で、わくA状のわくBを設け、わくA、Bそれぞれの補強板が外側になる様にして適当な位置でX状に交差させて、~~左側の左右~~^{左側の左右}をボルトとナット8で支えて、わくBの上部の丸棒34に \sqcap 状丸棒受け3を入れて ∇ 状のスタンドとし、上部の板2の左右のすき間の下部から上へちょうボルト9を突き出して、長さ10付きの魚状竿受け11の尾側の ∇ 状部をわくAの補強板側に突き出して、補強板12付きの \sqcap 状リール振れ止め13と共に適当な位置で固定し、中央部に適当な幅と長さの板の一端側に適当な穴14、14'を設け、他端部側の左右にU状切り欠き部15を設けたマ

ナ板兼ビーチパラソル支え板16の穴14'側をわくAの補強板4'側に適当に出してU状切り欠き部15にボルト17を入れてナットで固定し、適当な大きさと \sqcap 状の板の上部の左右にボルト穴29をあけて、適当な大きさと \sqcap 状の板、例えば、鉄板内を中空かまぼこ状とし、左右に穴19をあけ、正面から上部にかけて \sqcap 状切り欠き部20を設けて釣り竿下部支え台21とし、丸棒を \cap 状に曲げた釣り竿下部支え22の下部の左右の突起部23を \sqcap 状切り欠き部20から穴19に入れて外側に突き出し、釣り竿下部支え22の適当な位置に数ヶ所、上下に適当な板24をはさんでちょうボルト25と、ちょうナット26で固定した釣り竿下部支え台固定具27を補強板4、4'の間の適当な位置、例えば、左右と中央部の裏側から表側へ突き出したちょうボルト28をボルト穴29に入れてちょうナット30で固定し、前方のわくBに付けた下の補強板31の裏側に、釣り竿下部支え台21を逆にして付けた連動リールスタンド支え台3

2に釣り竿下部支え22を \sqcap 状に曲げて外側に出して連動リールスタンド支え33とした、連動リールスタンド。

◎作用

第1図の様に \hookrightarrow 状連動シャフト36で左右のリールを回わす時は、左右の釣り竿が平行で \hookrightarrow 状連動シャフト36が水平でないとリールが振れるので、魚状竿受け11を左右のリールに付けた犬、ネコ状のファッションポイント37の目と耳の所に掛けて左右の位置決めをし、前後の調整を左右の魚状竿受け11の下部の補強板6、6'の所に付けた釣り竿下部支え22に付けた板を前後にずらして固定(板24を傾斜させて付けると横風が強くても釣り竿が傾斜しなくなる)、又は魚状竿受け11を前後にずらして行なう。

連動リールスタンドがゴミや大物が釣れて浮かない様に連動リールスタンド支え台32に連動リールスタンド支え33を前方に向けて付ける。

\hookrightarrow 状連動シャフト36で左右のリールを回わすとリールが振れるので、左右のリールの内側にし

伏リール振れ止め13を付ける。なお、上部の補助板12は、伏運動シャフトを着脱する時に倒すと楽に着脱出来る。

実施例

- (1) 第1図の様に伏運動シャフトを使って左右のリールを回す時はリールが振れない様に左右のリールの内側に伏リール振れ止めを付け、釣り竿の下部を釣り竿下部支え22に板24を傾斜させて適当な位置で固定して支える。(ビーチパラソルも下部を同様にして支える)
- (2) 第1図の様に砂浜で釣る時、釣り糸に力がかかる時には、前方の運動リールスタンド支え33に運動リールスタンド支え33を前方に突き出して付けばよい。ビーチパラソル
- (3) 第36図の様に釣り竿下部支え38を釣り竿下部支え22につるして釣り竿下部支え22を支える事により、釣り竿が砂に沈んで伏運動シャフトが傾斜して回わしにくくなったり、魚の当たりがわからなくなる等の欠点なくなる。
- (4) 第36図の様に釣り竿、ビーチパラソル下部支え

受け38を釣り竿下部支え22につるして釣り竿下部支え22とビーチパラソルの下部支え22を入れて支えれば、セットをしたままで釣り場の移動が出来る。

- (5) 脚付きネットパイプ39を第27図の様に付ければ水平竿置きになり、第29図の様に付けば傾斜した竿立てになる。

◎発明の効果

- (1) 横風が強くても釣り竿が傾斜しないので伏運動シャフトがスムーズに回わる。
- (2) 運動リールスタンドを小さくしても転倒しない
- (3) 砂場で釣ると魚の当たりがわからず、釣り竿が砂に沈んで運動シャフトがうまく回わらなかったが、魚の当たりがよくわかり、何回も竿の高さを調整する必要がなくなる。
- (4) 釣りのセットをしたままで釣り場の移動が出来る
- (5) 水平竿置き、傾斜竿立てにも使える。
- (6) マナ板、兼ビーチパラソル支え板16を前方に突き出して固定しておけば、左右の仕掛けがからまない。

4 図面の簡単な説明

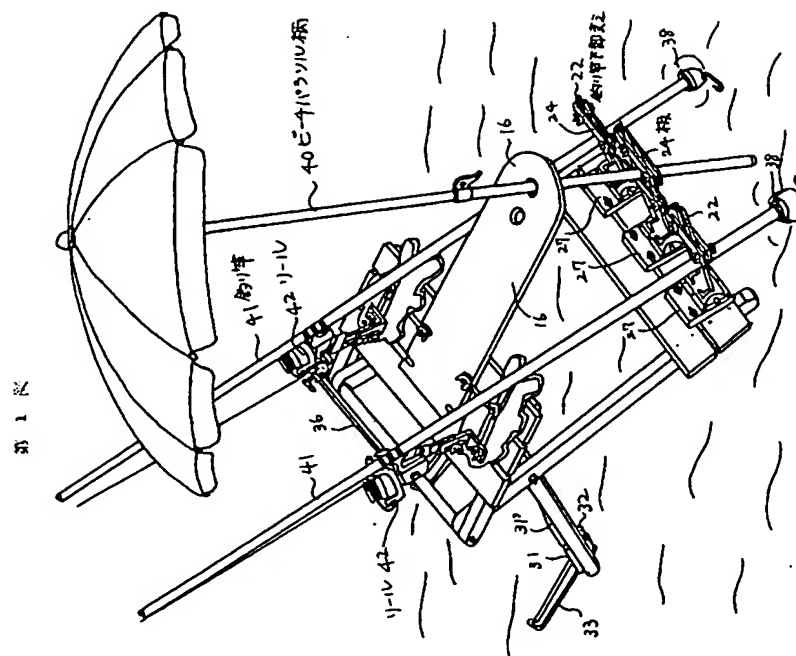
第1図は本発明による実施図 第2図は釣り竿下部支え台固定具27を補強板8、8'の所に付けた時を示す図 第3図は釣り竿下部支え22に板24を上下に傾斜させて固定し釣り竿41を受けた時を示す図 第4図は釣り竿下部支え22に釣り竿41を入れ、前後に板24を止めた図 第5図は釣り竿下部支え台固定具27の斜視図 第6図は釣り竿下部支え22にビーチパラソル柄40を入れ、前後に板24を止めた図 第7図は釣り竿下部支え22の上下に付けた板24の取り付け状態を示す図 第8図は運動リールスタンド33の取り付け位置を示す図 第9図は運動リールスタンド支え33の側面から見た図 第10図は本発明の収納状態を示し、L状リール振れ止め13に竿袋とビーチパラソルをはさげて運ぶ時を示す図 第11図は釣り竿下部支え台固定具27に釣り竿下部支え台21を付けた時の正面図 第12図は補強板31に運動リールスタンド支え台32を付けた時の正面図 第13図は本発明でビーチパラソル

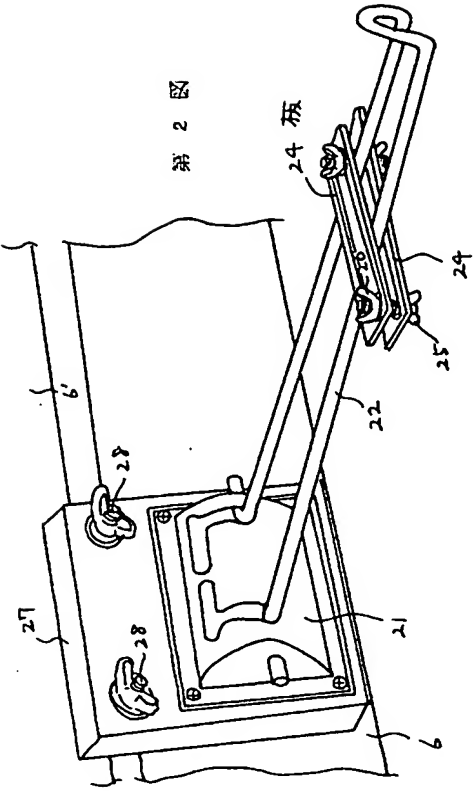
を立てた時を示す図 第14図は本発明のわくAの正面図 第15図は本発明のわくBの正面図 第16図はわくA、BをX状に組して支えるト7の分解図 第17図はL状丸棒受け3の斜視図 第18図はL状リール振れ止め13の分解図 第19図はマナ板兼ビーチパラソル支え板16の斜視図 第20図は伏運動シャフト36の斜視図 第21図は魚状竿受け11の斜視図 第22図は運動リールスタンド支え33の斜視図 第23図は釣り竿下部支え22の斜視図 第24図は伏運動シャフトの掛け方を示す図 第25図は運動リールスタンド支え33を補強板に付けた状態を示す図 第26図は本発明の実施状態の側面を示す図 第27図は釣り竿下部支え台21に脚付きネットパイプ39を付けて水平竿置きとした図 第28図は脚付きネットパイプ39の斜視図 第29図は釣り竿下部支え台21に脚付きネットパイプ39を付けて傾斜竿立てとした時の斜視図 第30図は釣り竿下部支え台21に脚付きネットパイプ39を付けて傾斜竿立てとした時の斜視図 第31図は釣り竿下部支え台

固定具 27 を傾斜竿立てとした図 第 32 図は釣り竿下部支え台 27 を水平竿立てとした時の実施図 第 33 図は釣り竿下部支えの上に竿受けネットを置き板 24 で固定した時を示す図 第 34 図はエサ入れ 第 35 図はエサ入れ受け兼ビーチパラソル支え 47 の斜視図 第 36 図は釣り竿ビーチパラソル下端部受けに釣り竿の下端部とビーチパラソルの下端部を入れて、連動リールスタンドをセットしたまま運べる機にした時の図

18 は U 状曲げ板 40 はビーチパラソル柄 41 は釣り竿 42 はリール 43 は穴 44 は長穴 45 は長穴 46 は堤防 47 はエサ入れ受け兼ビーチパラソル支え 48 はエサ入れ 49 はエサ入れ受け穴 50 は穴 51 は U 状切り欠き部 52 は竿受けネット 53 は竿 54 はビーチパラソル 55 は竿袋

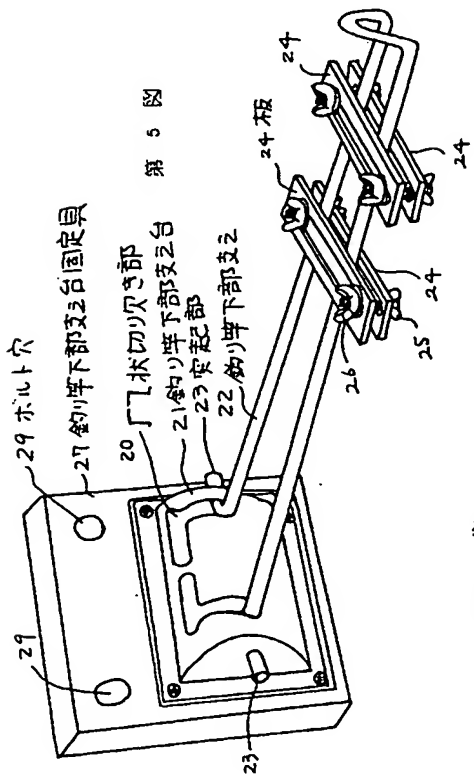
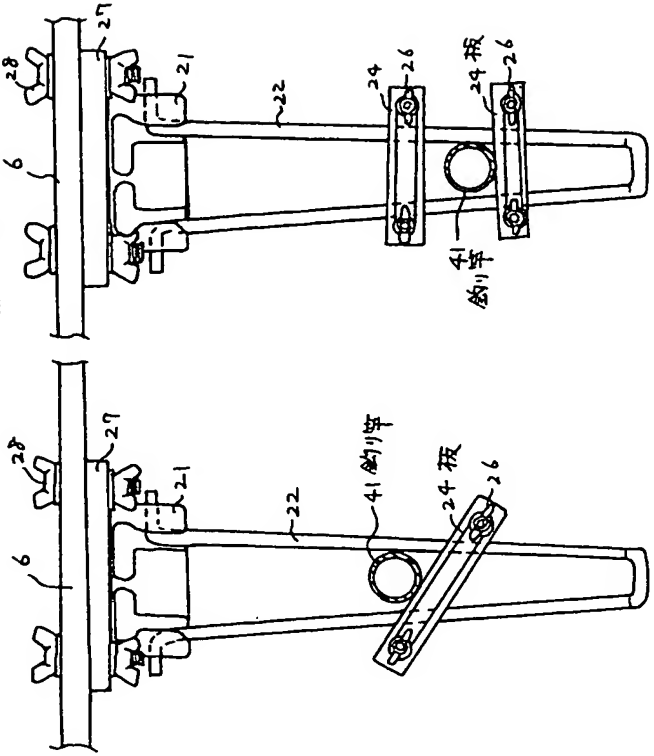
特許出願人 田 端 久 雄



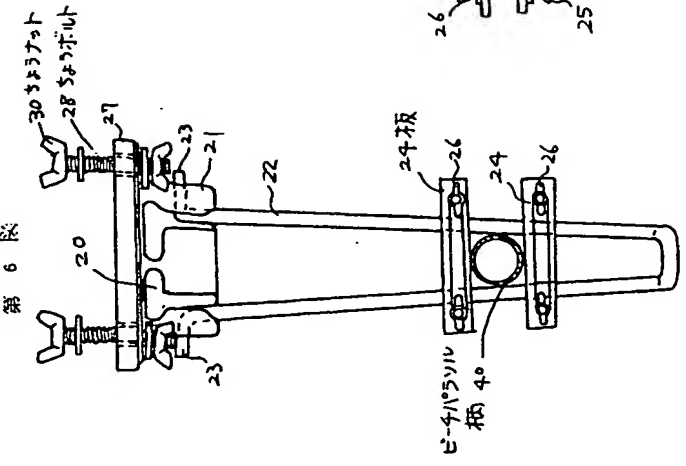


第2図

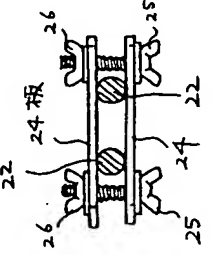
第3図



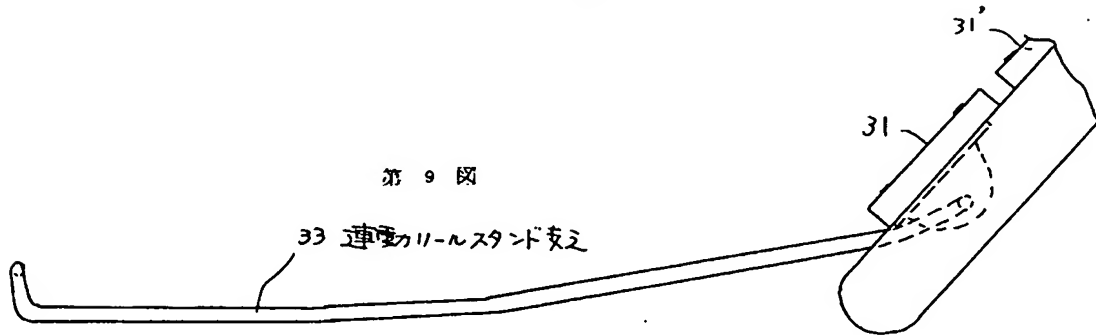
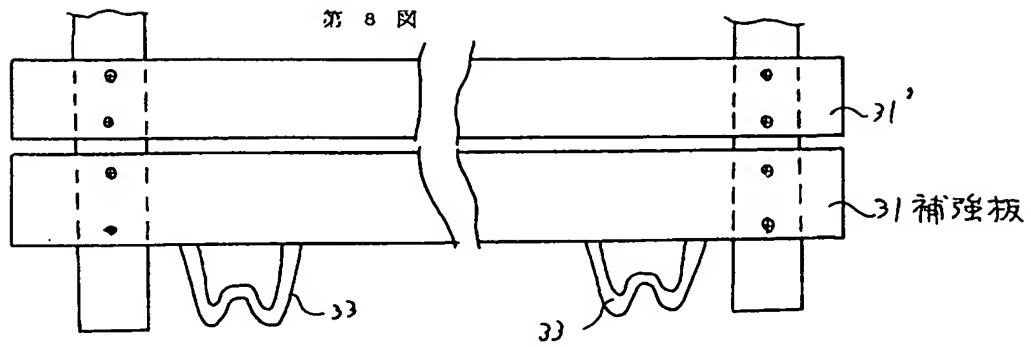
第4図



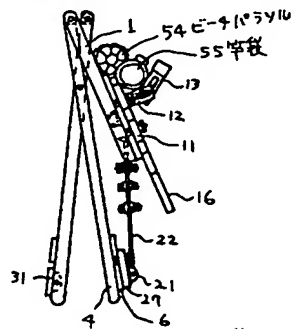
第5図



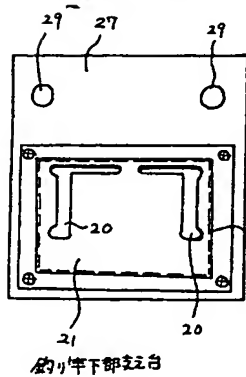
第6図



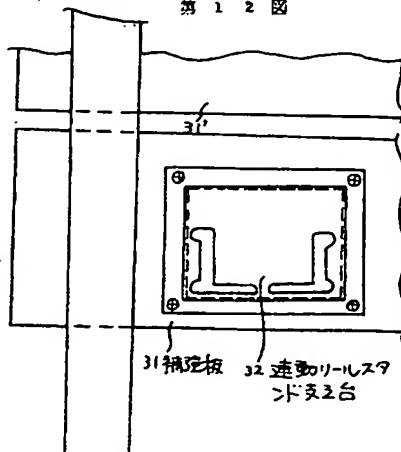
第 1 0 図



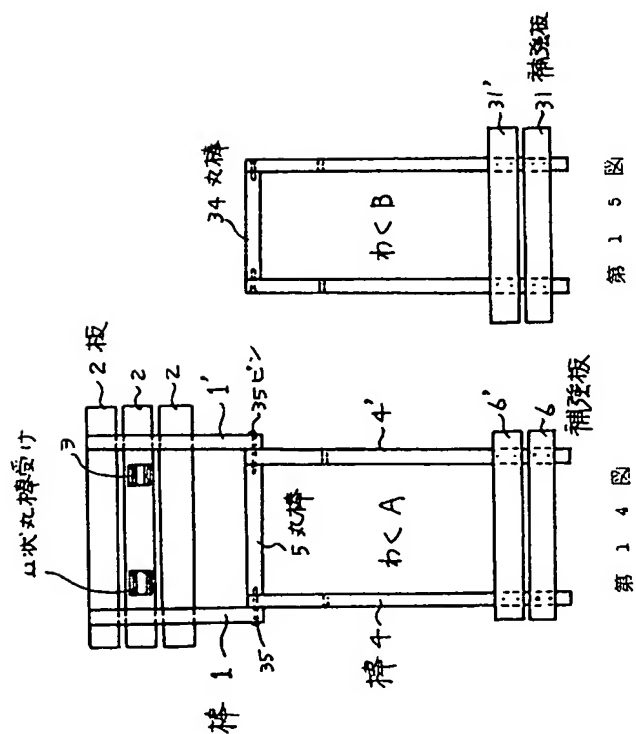
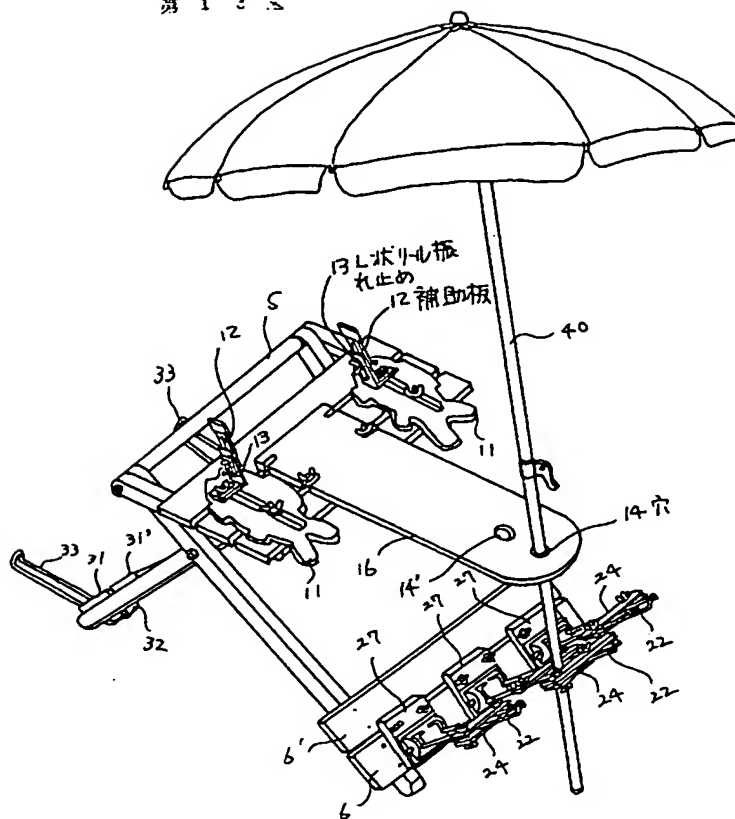
第 1 1 図



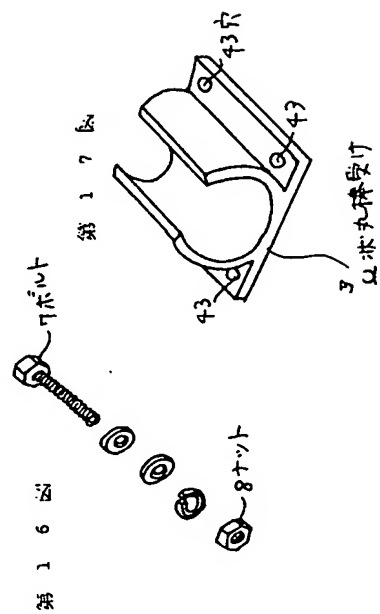
第 1 2 図



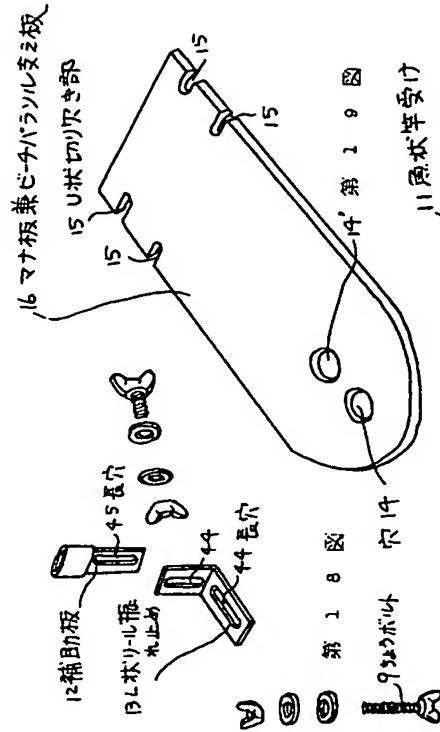
第 1 卷



第 15 函



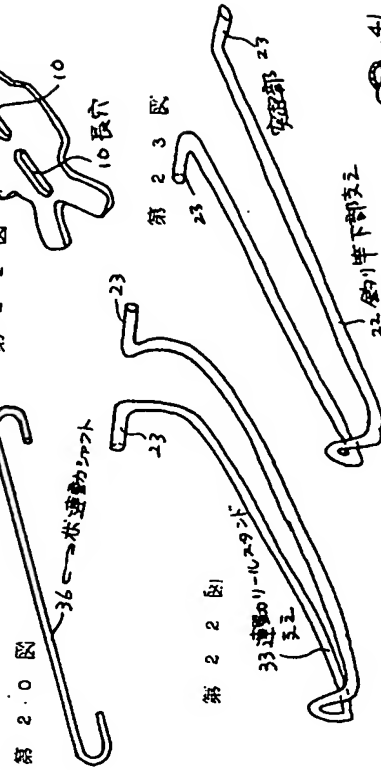
第 1 卷



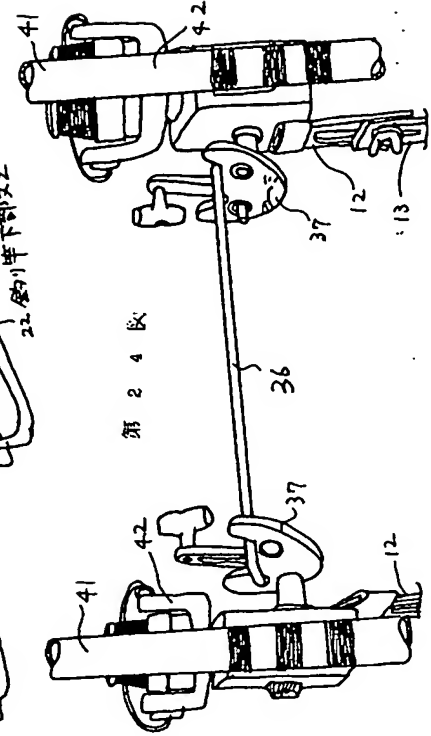
第 18 図



第 19 図

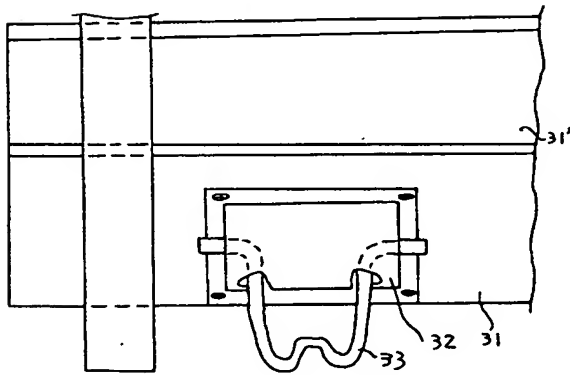


第 20 図

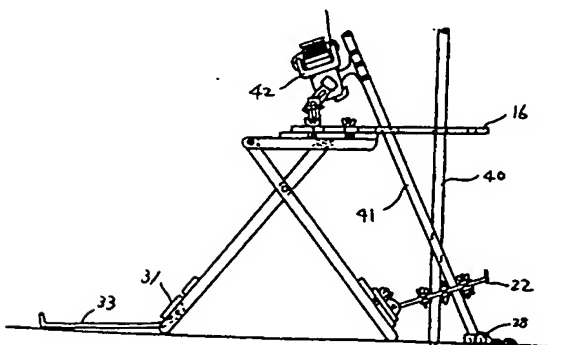


第 21 図

第 22 図

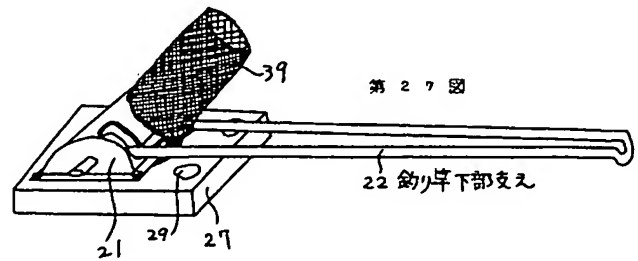


第 23 図



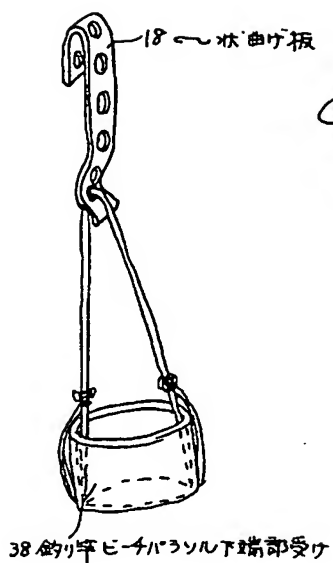
第 24 図

図面の浄写

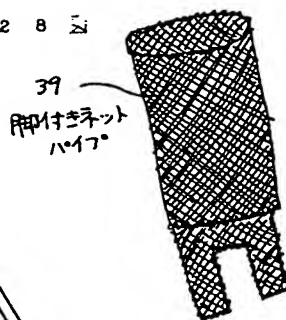


第 25 図

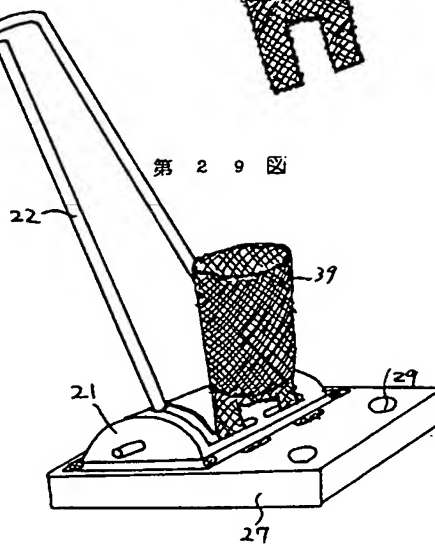
第 3 0 図



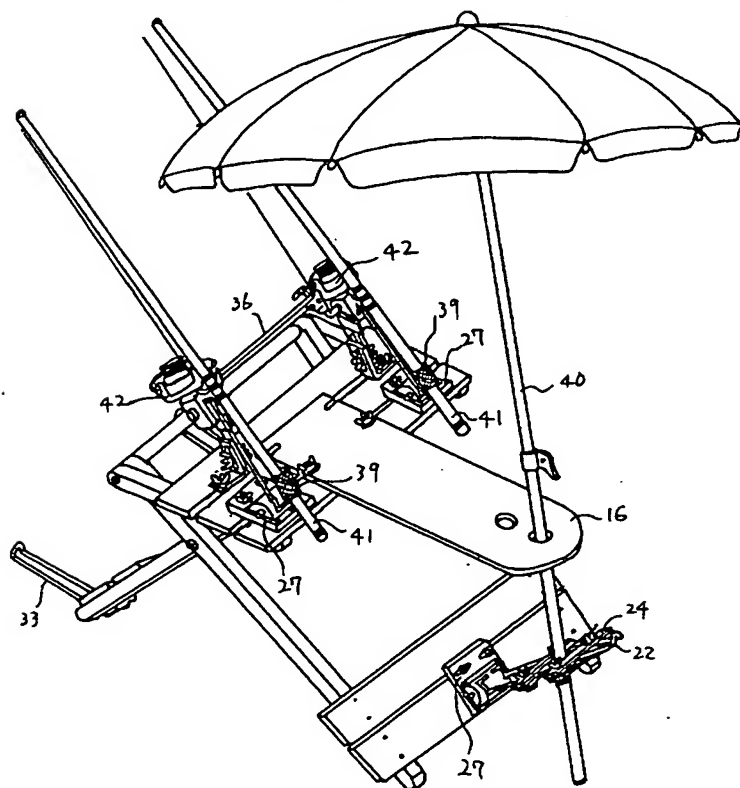
第 2 8 図



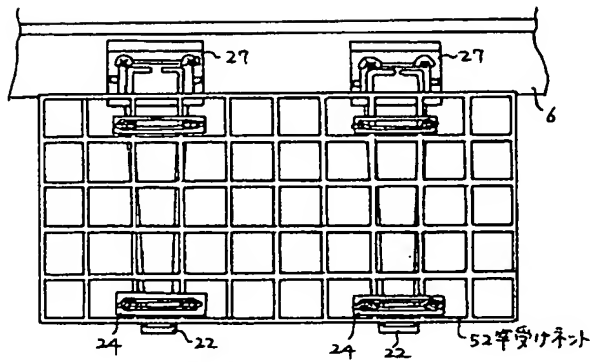
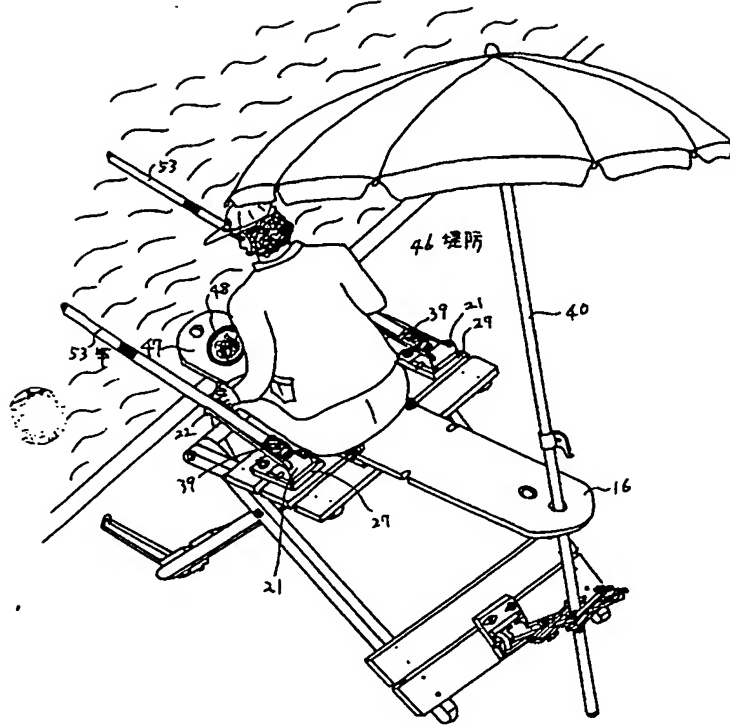
第 2 9 図



第 3 1 図



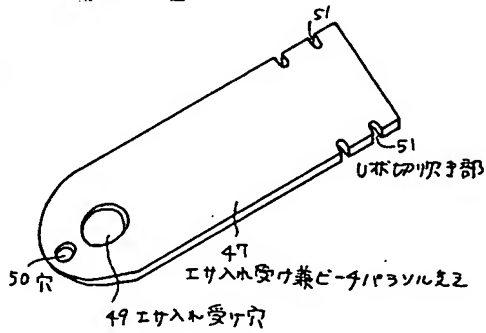
第 3 2 図



第 3 3 図

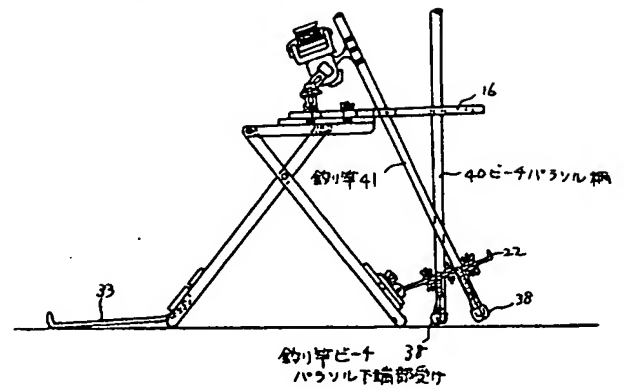


第 3 4 図



第 3 5 図

第 3 6 図



手続補正書(方式)

昭和63年9月25日

特許庁長官 殿

1 事件の表示 昭和63年特許願 第164156号

2 発明の名称 連動リールスタンド

3 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所(居所) 静岡県浜松市小沢渡町1836番地の1

氏 名(名称) 田 幡 久 雄



4 補正命令の日付(発送日)

昭和63年 9月27日

5 補正の対象

図 面

6 補正の内容

別紙の通り



方式
審査



PAT-NO: JP402013339A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 02013339 A
TITLE: INTERLOCKING REEL STAND
PUBN-DATE: January 17, 1990

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
TABATA, HISAO

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
TABATA HISAO N/A

APPL-NO: JP63164156
APPL-DATE: June 30, 1988

INT-CL (IPC): A01K097/10, A01K097/22

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide the title reel stand so designed that a stand on which two fishing rods with reels can be fitted is made in the form of a special structure to protect it from falling even if large-sized fishes or garbages are caught, and said two reels are connected to each other with a special connector, thereby enabling easy, simultaneous winding.

CONSTITUTION: A stand on which two fishing rods with spinning reels can be fitted is formed by connecting three frames made by putting reinforcing plates between two bars arranged parallel to each other followed by fixing said plates. The winding handle shaft of each of the spinning reels 42, 43 is fitted with connecting plates 37, and a connecting shaft 36 is then hooked on the holes provided on these plates 37, thereby enabling simultaneous

winding.

COPYRIGHT: (C)1990, JPO&Japio